

第3号 2010年6月24日号

JICAガーナ・ソニー連携ニュースター ワールドカップ・パブリックビューイング

はじめに

JICA & Sony Public Viewing in Ghana: Football against HIV & AIDS

先週は北澤さんチームをはじめ、撮影チームなど日本から5チーム計24名の方が、来ガされました。それぞれの任務を初めての場所で、かつ短期間できっちりこなす、という使命感と精力的なスケジュールに事務所スタッフも圧倒されました。撮影に協力いただいたJOCV隊員をはじめ、皆様ありがとうございます。撮影チームは帰国しますが、お知らせしたとおり、JICA & Sony連携イベントはワールドカップ決勝戦まで続きます。ぜひとも、それまでガーナも日本も勝ち残ってほしい、それだけです。

(次長 佐藤)

先週のできごと

アクラを出発して車で約2時間、グレートアクラ州アイエニャの OrphanAid Africa (アフリカ孤児支援の会)のグラウンドに到着。このNGOでは2008年から2009年にかけて田中三千太郎隊員(青少年活動)がガーナ人コーチとともにサッカークラブを中心としたスポーツ活動を運営し、軌道に乗せました。その活動を引き継いで小池郁美隊員(20/4次隊:青少年活動)がこのNGOと村の小学校で体育の指導をしています。今回のサッカー教室はこの小学校の生徒を中心に7歳から12歳のこどもたち45名が参加しました。炎天下のもと6月18日午後2時から3時過ぎまで約1時間の間、近隣も含めたコミュニティから参加した観客約450名の見守るなか行われました。協力隊員6名も通訳や指導のお手伝いをしました。

サッカー教室に集まったこどもたちは全員裸足。早くボールを蹴りたくてうずうずしてる様子。来賓の挨拶、北澤さんの紹介のあといよいよ開始。まずはコーンの上に置いたボールをとってきてまた戻す動き。さっさとできてしまうこども、なかなかコーンの上に乗せられないこども、サポータにちょっと手伝ってもらったこどももいました。次は手つなぎ鬼(二人一組で手をつなぎオニを追いかける)。オニになったサポータの隊員と一緒に必死に追いかけます。炎天下でも楽しそうに走り回っています。そこにボールが入ってきて二人でボールを蹴りながら、今度は追いかけてくるオニから逃げます。あっちへ行ったりこっちへ来たりボールが飛んでいってしまったりしています。ボールもコントロールしながら二人で逃げるのは難しそうです。

そしていよいよシュート練習。北澤さんがコーナーから蹴りだすボールを二人一組でクロスで走りこんできてシュートします。動き方が良くわからないためサポータ隊員がお手本を見せこどもたちもわかったようですが、なかなかタイミングが合いません。時々はとつようなタイミングでシュートが決まり観客からも大きな声援が送られます。ゴールを決めた子はガッツポーズをしてうれしそうです。コーナーキックの精度が高いのでしょうか？ガーナのこどもの身体能力の高さでしょうか？順番待ちをすることもたちは一列になって自分の番が終わると最後尾についています。

目次

はじめに

先週のできごと

18日@アイエニャ

サッカー教室

HIV検査

PV(アルジェリア vs イングランド)

19日@コフォリデュア

JOCV vs ガーナユース

PV(ガーナ vs 豪州)

今後の予定

サッカー教室



最後には北澤さんも入った練習試合です。練習といえども選手も観客も夢中で、ゴールが決まる選手はガッツポーズ、観客はどっと沸きます。暑いなかでも子どもたちの動きは衰えません。

試合の後、北澤さんからソニーの開発した高耐久性ボールが子どもたちの学校に贈呈されました。

その際に、このボールのデザインは仲間と一緒に夢を追いかける、私たちもアフリカの子どもたちと一緒にのチームという思いが込められていることを説明し、「みんなもチームの一員」であり「ボールを蹴って夢をつかんでほしい」とのメッセージを届けました。

サッカー教室のプログラムは、人の話を良く聞くこと、人のやることを良く見ること、自分のチームの人が困っていたら助けること、ルールに従うことを理解させること、が自然と身につくように考えられていることを後で伺いました。確かになるほど思惑どおりになっていました。

ゲームに参加した北澤さんからは「ガーナ人は動きが早い」との感想が聞かれました。2010年 U-20 優勝につながった若い選手層の厚さ？を感じて頂けたのではないのでしょうか。

(所長 山内)

JOCVを中心としたHIV / AIDS活動に関して、北澤さんはガーナ訪問前から大きな関心を寄せていました。そこで、サッカー教室後にアイエニヤのHIV検査会場前で北澤さんにインタビューを行いました(聞き手: 山口悦子企画調査員)。

北澤さんへの インタビュー : HIV 検査について

(JICA、以下J)ガーナでは若者の HIV 感染が増えており、日本の若者の間でも STIs 感染が増えています。北澤さんから若者に対してメッセージはありますか？

(北澤さん、以下K)若者たちは夢や希望にあふれている一方、自らのリスクを自覚していない。「自分が感染することはないだろう」「エイズは自分には関係ない」と思っている人が多いのではないかと。一人一人が正しい知識を身につけ、自身のリスクを自覚し、行動に移すことが肝要。そういった意味で今回のように、多くの若者が関心のあるサッカーといったスポーツを通じて HIV の啓発を行うことは有効だと思う。

(J)ガーナでは国民の大半(9割以上)が自身の HIV ステータスを知らない状況です。理由としては根強い差別・偏見のほか、まだまだ HIV に関する知識が普及しておらず、「HIV 感染 = 死」、つまり陽性であれば先はないから HIV 検査を受ける意味がないと考える人も多いのです。検査を促すポジティブなメッセージはありませんか？

(K)自分のステータスを知ることが結局は自分を知ることであり、生きていくうえで重要。検査を受けて陽性であっても、確かに治癒はしないが、服薬することで AIDS 発症を抑えることは可能。早期発見、早期治療のためにも多くの人に AIDS 検査を受けてほしい。

(J)今回のイベントは各地で活動している協力隊員が中心となって企画、準備、実施をしています。協力隊員へのメッセージをお願いします。

(K)隊員自身が過酷な生活環境に曝されている中、コミュニティの人の命を守るために活動をしていることは素晴らしい。皆さんの活動がコミュニティに伝わり、コミュニティの人々自身がそれを受け継いでいけるといい。南部アフリカでは 10 人いればそのうち 3 人は HIV 陽性の国もある。サッカー教室をしていても参加している多くの子どもたちが HIV 陽性だったりする。ガーナとはかなり状況が異なる。

(J)感染率が高く HIV が極めて深刻な状況にある南部アフリカとは異なり、ガーナをはじめとした西アフリカは感染率が比較的 low、性に密接に関わる HIV エイズは、話をするのも難しいコミュニティもあります。こうした状況でも正しい知識を普及させ、感染率を抑えるために予防活動を推進しなくてはなりません。

(K)人々が考え方や価値観を少しずつでも変えていかなければならない。そういった意味で今回のようなイベントでスポーツやダンス、チアリーディング、劇を通して明るく HIV の話をし、HIV に関する従来のイメージを変えることも有効だろう。

HIV/AIDS に対する JICA としての取り組みを大いに評価いただき、有意義なインタビューでした。

PV(アルジェリア vs イングランド



パブリックビューはコミュニティの人々約 250 名参加して行われ、北澤さんも子どもたちと一緒に試合を楽しみました。パブリックビューに使うスクリーンを見た北澤さんの一言目は「大きいねえ」でした。暗くなるにつれてくっきり浮かび上がるように光る映像を可能にしたソニーの技術に感心していました。試合の結果は、0対0の引き分けでしたが、みんなで見る大画面の映像と星空とのコントラストが印象的な夜でした。

(企画調査員 山口
編集:次長 佐藤)

協力隊員 vs ガーナ人青年チームの サッカー親善試合



6月18日(金)コフォルデュアの Freeman Methodist Park にて、北澤さんと協力隊員による日本人チーム VS ガーナ人青年チームによる親善試合が行われました。北澤さんと一緒にプレーできるということで、ガーナ国内の様々な地域で活動する協力隊員 13 名が選手として遠路はるばると胸をわくわくさせてコフォルデュアに集合しました。

この日のために、協力隊員はブルーのユニフォームを作りましたが、即席であったためか、なんと背番号は全員 10 番。北澤さんにも同じユニフォームを着ていただき、心をひとつにしてキックオフ。まず前半戦は協力隊員のみでガーナ人青年チームに果敢に挑みます。本番前の練習は一回のみでしたが、そこはさすがに「協力」隊員。ワンマンプレーではなく、互いの動きをよく見ながら連携プレーが続きます。しかし、普段から生活面でも運動面でも体を鍛えているガーナ人にゴールを決められてしまいます。また、彼らと同じように走り続けるのはしんどいのか、次第に足がついていなくなる協力隊員の姿も見られるようになる頃、ハーフタイム。後半戦に入り、待望の北澤さんが加わったことで一気に気持ちも戦力も高まる中、日本人チームの攻撃が続きます。そして、北澤さんによるフリーキックのチャンス到来。みんなの期待が集まる中、シュート！・・・と思われましたが、ガーナ人キーパーの好プレーで惜しくも点にはつながりませんでした。気持ちを取り直してさらにチーム一丸となって奮闘を続けましたが挽回ならず、ゲーム終了のホイッスル。今回の親善試合は 0-3 で惜しくもガーナ人青年チームが勝利を収めました。



ゲーム終了後、ユニフォームを交換しながら握手を交わす両チームの選手たち。北澤さんは「相手の交流意識が高い。全力で試合でぶつかるが、終わってからの振る舞い方には愛情を感じる」とコメントされました。一方で「親善試合ということで親善ができればいいとは思いますが、いざ試合となるとやはり勝ちたいという気持ちになる。負けてしまったことは悔しい」とも。協力隊員については、「ガーナに住む数少ない日本人で、みんながよく結束していると思う。JOCV は現地の人とかがかわって信頼を勝ち得ており、日ごろの働きぶりが見て取れた」と評価してくださりました。



選手として参加した協力隊員からは「北澤さんは自分がサッカーを夢中でやっていたときに現役選手でとても憧れていた人。今回、このような形で一緒にプレーできて感動しました」と語ります。また応援に駆けつけていた隊員らも試合終了後に北澤さんと話す機会があり、「協力隊活動に対して声援を送ってくれた」「非常に気さくな方だった」と喜んでいる姿も見られました。

JICA のオフィシャルサポーターである北澤さんと、現地でガーナの発展のために邁進する協力隊員が共にサッカーというスポーツを通して、ガーナ人青年と交流できたことは、今回の JICA & Sony 連携イベントの中でも注目すべきコマであり、協力隊員の今後の活動への活力になったことでしょう。
(ボランティア調整員 北原)

PV(ガーナ vs 豪州)

イースタン州の州都コフォリデュアではニュー・ジュアベン市役所でエイズ予防啓発活動に取り組む吉村恵侑(やすゆき)隊員(20/4 次隊 村落開発普及員)がカウンターパートとともにイベントの企画・実施を行いました。詳細は次号でお伝えしようと思います！

W 杯結果と予定

2010 年 6 月						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2010 年 7 月						
S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- [6月]
- 13日(日) Akosombo **ガーナ** vs セルビア [1-0]
- 15日(火) Apeguso ブラジル vs 北朝鮮 [2-1]
- 18日(金) Ayenyah イングランド vs アルジェリア [0-0]
- 19日(土) Koforidua **ガーナ** vs オーストラリア [1-1]
- Asikasu カメルーン vs デンマーク [1-2]
- 21日(月) Kusi スペイン vs ホンドユラス
- 23日(水) Atuobikrom **ガーナ** vs ドイツ [0-1]
- 24日(木) Akoase カメルーン vs オランダ
- 26日(土) Huntado **ガーナ** vs 米国
- 27日(日) Nkawie イングランド vs ドイツ
- 29日(火) Betiako Round of 16 (H 1位 vs G 2位)

- [7月]
- 2日(金) Moglaa 準々決勝
- 3日(土) Tamale 準々決勝
- Bunglumg 準々決勝
- 6日(火) Mbanayii 準決勝
- 7日(水) Nwodua 準決勝
- 10日(土) Ajumako 3位決定戦
- 11日(日) Agona Swedru 決勝

編集後記

昨日、ガーナはドイツに惜敗したものの、セルビアを破ったオーストラリアと勝ち点で並び、得失点差で 2 大会連続の決勝トーナメント進出を果たしました。26 日の PV も盛り上がることも間違いありません！

(角崎)